



生活意欲を向上させ、自立支援につなげる出張理美容サービス

PICK UP

【社内研修会報告】皮膚について理解を深めよう



松本先生による講義。皮膚の構造から汚れ落としまで学んだ。

8月31日、医療法人社団八千代会メリィホスピタルの皮膚・排泄ケア特定認定看護師、松本先生をお招きし、皮膚トラブル講習会を開催しました。

私たちは日頃、頭皮の傷、皮脂の塊、髪のもつれなど、頭皮にトラブルを抱えられている患者様に接することがあります。当社スタッフはこういった患者様に接するたびに「理容師（美容師）としてどうかお力になりたい」と思う一方で、具体的にどうすれば良いのか、私たちに何ができるのか見当がつかない状態でした。

そこで、皮膚の基礎知識から学び直すために松本先生をお招きしました。テーマは「皮膚について理解を深めよう」。講習では皮膚の構造・役割からトラブルの原因、皮膚に負担の少ない汚れ落としの方法まで、2時間にわたりご講義いただきました。皮膚は外部の刺激から身体を守るバリアの役割を担っており、加齢とともにその機能が低下しやすくなります。汚れ落としについては「洗い過ぎ・こすり過ぎはNG」というお話が特に印象的で、日頃のシャンプーを見直すきっかけになりました。



講習会を終えて、松本先生（前列・白いジャケット）と記念撮影。

頭皮にトラブルを抱える理由は様々で、高齢化によるターンオーバーの低下だけでなく、長期間に及ぶ枕との摩擦、治療による反応など、患者様だけで予防することは困難な場合がほとんどです。そんな状況を未然に防ぐことは難しくても、理髪力で悪化予防のサポートができると再認識できました。

頭皮異常を発見した場合に職員様へ報告したり、清潔感を保ちやすいヘアスタイルを提案したりと、私たちにできることはたくさんあります。

今回の学びは、より一層患者様に寄り添うきっかけになりました。今後も専門職の方々から学ぶ機会を大切に、患者様・ご家族様、そして職員の皆様に安心していただける出張理美容を目指してまいります。



生活意欲を向上させ、自立支援につなげる出張理美容サービス

—— STAFF 現場・社員紹介

専務取締役 小川 優子



現場の責任者をしております小川優子と申します。社会人のスタートは看護師を目指して病院に就職し、准看護師の資格を取得して5年勤めました。理容師の主人（現会長）と結婚して看護師をやめ、理容院の手伝いに入りました。子どもが保育園のときに、通信で理容師の資格を取得しました。

2000年の介護保険法施行の折に福祉理美容サービスを知りました。福祉に興味があり、両方の資格を活かせると思い、この道に進みました。初めてベッド上でのカットに入ったときは、どうすればいいのか悩みました。様々な試行錯誤を経て、今ではスピーディーに安全・安楽に、髪の毛の飛散もなく仕上げることができます。

何と言っても、お客様と喜びを共有できることがこの仕事の醍醐味です。髪を整えることで、誰かに会いたくなる、意欲がわくなどの効果が得られます。その人らしさを表現するために、整髪はとても大切なことだとつくづく感じます。

先日、緩和ケアで訪問した方は、あと1週間の命と告知されたときに散髪をしようと思われたそうです。自分が自分であるための表現に、整髪は大切なのだと実感しました。

ご家族の思い、ケアラーの方々への寄り添いも大切にしています。この仕事を通じて、人としてたくさんの学びをいただいています。出張理美容という仕事を誇りに思っています。素晴らしいスタッフとともに、目の前の方に喜んでいただけるよう取り組んでまいります。

—— TOPICS トピックス

おしゃれ染めが増えています

出張理美容という「白髪染め」のイメージを持たれる方も多いかもかもしれません。以前は白髪をカバーするご要望が中心でしたが、最近は様々なカラーを楽しむ「おしゃれ染め」のご要望が増えています。「真っ黒ではなく自然な茶色にしたい」「アッシュ系の落ち着いた色味が好き」「顔周りだけハイライトを」など、ご要望は多様化しています。

こうした声にお応えするため、ホーユー株式会社の中山さんを講師にお招きし、スタッフ全員でカラー・おしゃれ染め勉強会を開催しました。色の仕組みや最新のカラー剤について学んだほか、実際にブラウンやグリーンアッシュ、赤、青などを試して発色を確認。髪質に合わせた放置時間の調整や色ムラを防ぐ塗布のコツなど、現場の疑問にも丁寧にお答えいただきました。

美容室に行けないからといって、おしゃれを諦める必要はありません。白髪染めはもちろん、おしゃれ染めのご要望もお気軽にご相談ください。お客様の「こうしたい」という想いを、確かな技術で形にします。



様々な色味を試し、発色を確認するスタッフ。

編集後記 社内研修会を開催する度に、いくつになっても学び続けることは大切だなと、思います。